

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	(株) ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)		
所在地	奈良県榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ligvosyoCd=2990500049-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く。」を目標に取り組んで居ります。大和三山に囲まれホームの周りは田畑に囲まれ穏やかな環境に包まれています。長年住み慣れた自宅を離れてホームでの共同生活を通して 皆さんと健康に生活の中に楽しみを見つけていただきたく取り組んでいます。二ヶ月に一回の健康セミナーを通して地域の方々との交流を深め又ボランティアの皆さんの訪問で歌や踊りで活気強く暮らして頂ける様努めています。毎週金曜日の訪問看護の日もあり細かな体調管理を実施しています。そして気候の良い日はなるべく外へ出かけて頂き季節を感じて頂いています。ホームの壁画にも季節を感じて頂く工夫もしています。利用者様 皆様が住みなれた家となり一日も長く暮らして頂く取り組みを継続して行きます。最後に裏に畑があり季節の野菜をみんなで お世話して収穫しお食事に提供させて頂いています。皆さんに大変喜んで頂いています。今年はとても猛暑で水遣りも協力して楽しく取り組んで来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く」というホーム独自の理念を掲げ、地域の一人としてホームの周りの環境のように穏やかに暮らすためにはどのような支援をしたらよいかを職員間で話し合いながら日々の支援に取り組んでいます。運営推進会議には家族をはじめ地域の方等ホームに関わりのある方々の参加も多く有意義な会議となっており、会議と同一日に地域向けの健康体操や介護相談等を行うセミナーを開催しホームを知ってもらう働きかけを行っています。また、ホームの秋祭りでも地域の協力を得ながら開催し子どもの参加もあり交流の場となっています。一年を通して天気の良い日には散歩に行ったり、玄関等に飾る季節毎の作品作りやホーム菜園での野菜作り等楽しみや役割を持ってもらいながら穏やかな暮らしを支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く。」をホームの理念として日々の業務を実践しています。そして理念に基づいた環境作りに努めています。進入社員にも説明しております。	職員間で話し合い、認知症の方々や家族に安心してもらえるようまたホームの周りの環境のよう穏やかに暮らせるようにと思いを込めた独自の理念を掲げています。理念は入社時に説明したり、玄関への掲示、ホーム会議やカンファレンスで振り返る機会を設け、日々の支援の中でも立ち戻るようにしており、理念を共有し支援することにより実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一度運営推進会議の後に健康セミナーを開催しています。セミナーを通して地域の皆さんと交流を図っています。後半に皆さんと馴染みの歌でメロディにサックスやキーボードを持参で参加下さる方も居られ嬉しくスタッフみんなでモチベーション高く取り組んでいます。	2か月に1回開催する健康セミナーや年1回行う秋祭りでは地域の方々の参加を得たり、協力してもらいながら開催することによりホームを知ってもらい交流できるように取り組んでいます。地域の消防講習や美化清掃活動に職員が参加し、利用者と散歩中に会う方々には挨拶を交わしています。またボランティアを受け入れたりオレンジカフェに職員が参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	榎原市地域包括が開催しているオレンジカフェにスタッフがボランティアで参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。介護相談員さん訪問看護さん訪問マッサージの先生家族様方に参加して頂き事業活動について報告しご意見を頂いています。充実した会議になる様努めています。	会議は2ヶ月に1回、利用者や家族、市役所職員、地域包括支援センター職員、訪問看護師、訪問マッサージ医などの参加を得て開催しています。開催日に健康セミナーや行事と一緒に家族の方にも参加してもらいやすいように工夫しています。ホームからは現状報告や活動報告、事故報告などを行い、参加者からは地域情報をもらうなどして有意義な会議になるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れ貴重なご意見を頂いています。サービス向上に努めています。	市の職員に運営推進会議に参加してもらいホームの現状を知ってもらっています。事故報告や分からない事があれば窓口に向いたり電話で確認するなど協力関係が築けるように努めています。市からの研修案内があれば可能な限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を初め榎原市の身体拘束研修にも参加させて頂き職員皆で共有し正しく理解し意識を持ってケアに取り組んでいます。	市が主催する身体拘束研修に代表者が参加し伝達研修を行い、ホーム内でも定期的なリスク研修を開催しています。言葉による拘束にも気をつけ、不適切な対応があった場合は、その都度注意しています。鍵については、防犯上施錠している時間帯もありますが、基本的には解錠しており、外出希望の利用者には職員が寄り添い外気浴など気分転換を図ってもらっています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを確認し職員研修又社外研修に参加し日々のケアに注意を払い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 後見人制度を活用している利用者さんが居られるので今後も支援する機会があれば活用していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取って頂きゆっくりと説明を行い理解納得頂いて署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。会議の中で貴重なご意見を頂いています。又面会時や介護計画の説明時にもこちらからご意見や要望を伺うようにさせて頂いています。	利用者の意見は日々の関わりの中で、家族の意見や要望は面会時や運営推進会議、アンケートなどで聞いています。意見が得られたときには個人ノートに書き入れ、カンファレンスで話し合い職員間で情報共有しています。個々の対応についての意見が多く、口腔ケアについての要望があり改善するなど支援に取り入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と普段のコミュニケーションの中で随時意見を交換しアクティビティや個々の介助等の提案に付いて積極的に取りいれるようにしている又ホーム会議やカンファ等で意見や提案を出しやすい環境作りに努めています。	月1回ホーム全体会議とフロアごとのカンファレンスがあり職員からは提案も多く活発な意見交換を行っています。出席できない職員には事前に意見を確認し、会議内容は議事録で報告しています。年に1回の個別面談や職員の様子を見て随時面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい明るい環境作りに努めています。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。又キャリアアップ制度があり試験面談でステップアップ出来スタッフの意欲と質の向上に繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加は出来るだけ調整しています。働きながらのトレーニングはその時に併せて必要な声かけを行う努力をしています。		

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談派遣事業における三者関連連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には訪問させて頂き家族様の思いや不安を等少しでも気になる事があれば気軽に質問して頂ける様案内し家族様の見学や質問などにも積極的に対応するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様 ご本人の意向を伺い必要なケアが提供出来る様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に置いてしっかりとコミュニケーションを図りスタッフも家族の一員と言う視点で関わるようにしています。本人の経験や趣味を活かして野菜の世話、料理など負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に散歩や外出に付き添って頂いたり家族様の思いを尊重し共に理解し支援出来るように努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や親戚の方 お友達の方々に外出に制限がない事をお伝えし家族様と外出や帰省される場合は情報提供や介助方法のアドバイスをする等支援を行っています。	孫や親戚、学生時代からの友人などの来訪があり、居室や和室に案内し、お茶や椅子を用意してゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。家族と一緒にこれまで通っていた馴染みの美容院や外食、法事、墓参り等出かける際には準備支援を行い、スムーズに外出できるように支援しています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が上手く関わりが持てるよう座る場所をスタッフが誘導させてもらい楽しく安心して過ごせるよう気配りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に付いては差しわりの無い範囲で家族様からの状況を伺い希望により相談を受けさせて頂いたり交流を持っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で一人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様に努めています。行動を強制する事無く自然な状態で一日一日過ごして頂いています。	入居前に自宅や病院、施設に出向き本人や家族から身体状況やこれまでの生活歴、できる事とできない事等のくらしの情報を得てアセスメントを行っています。入居後は日々の様子を記載した記録などを参考にカンファレンスで話し合い思いや意向の把握に努めています。把握が困難な場合は家族に確認したり、職員同士で話し合い本人本位に検討するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族様からの情報を得られるように努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの状態・生活層等を理解しカンファレンスなどで話し合い日々の記録や水分排泄を確認し普段からの状態の変化に対応できるように取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	本人や家族の意向やアセスメントを基に介護計画を作成しています。計画は利用者の状況に応じて3~6か月の期間で設定し見直しを行っています。定期的にモニタリングを行い、見直しの際には本人や家族を確認し、必要に応じて主治医、看護師等の意見を聞いてサービス担当者会議を開催し、現状に即した計画になるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録申し送り等でスタッフ共有しケアに行かせるようにしています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が歩んできたこれまでの生活がなるべく途切れないように生き活きと暮らせるように支援させて頂いています。又近隣と散歩やドライブに行き外出など楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医も大切にホームの主治医診療所との連携を図りながら協力体制を作り支援させて頂いています。	家族の対応を基本にこれまでのかかりつけ医を継続することも可能である事を入居時に説明し、受信時は書面や口頭で情報のやり取りを行っています。ホームの2カ所の協力医は24時間連絡や往診が可能で、月2回、定期的な往診があります。また週1回の訪問看護師の健康管理を受け、希望や必要に応じて精神科や皮膚科、眼科、歯科の往診や医師の指示により訪問マッサージを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様医療介護が連携を取れるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族様の意向を重視し相談しながら早期退院に向けて対応させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂けるよう家族さんの希望や主治医の判断により出来るだけターミナルの対応を行っている。又入居時から終末期の過ごし方に付いて家族様に意向を確認し重度化した場合や終末期には家族様と主治医と連携を図りながら方針を行っている。	入居時に看取り指針に基づいてホームとしてできる事やできない事を説明し、希望を聞いています。重度化した場合は医師の方からも家族に説明があり再度意向を確認し、家族と医師、職員で話し合い方針を決定しています。これまでに看取り支援を行っており支援の際は家族の面会を多くしてもらったり、ホームでもできる限りの支援をしています。新しい職員には経験のある職員が付いたりシフトを変更する等職員同士も協力し合いながら支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練を実施しています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	昼夜を想定した避難訓練を年に2回独自で実施し、消火器の位置や使い方の確認、避難誘導の訓練を可能な利用者と一緒に行ったり、水害を想定して2階への避難訓練も行っています。年1回、地域の消防訓練には職員が参加し、協力の依頼しています。また備蓄品として水や粥、缶詰などを置いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが居室に入るときは必ず本人に声を掛けるなどプライバシーを守る接遇を心がけているまたその方にあわせた話しかけがなされる配慮している。	利用者は人生の先輩であり、敬意をもって丁寧で話しかける事を基本とし、呼び方も苗字で呼ぶ事を基本としていますが、本人がわかる呼び方で呼ぶ事もあります。不適切な対応があった場合は、管理者やリーダーがその都度注意しています。接遇マナーについては会議の中で管理者から話をしたり振り返る機会を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で食事の準備や片付け洗濯たみ声かけ等庭やベランダに気軽に出られることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているオシャレ心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備 配膳 片付け等自発的に参加して頂いている又畑で収穫した野菜を食事に取り入れている為普段からなるべく利用者さんと一緒にさせて頂いている。そしてメニューや調理方法を教えて頂いたりしています。	献立は利用者の希望を聞きながら旬の食材も取り入れ立てており、可能な利用者には盛り付けや食器拭き、テーブル拭きなどを一緒にしています。おせちや節分の巻き寿司、ひな祭りのちらし寿司などの季節の行事食、畑の食材が食卓に上ったり、寿司や弁当の出前、家族と外食に行く方もおり食事が楽しみなものとなるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取量も記録して支援しています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食口腔ケアお声かけ等させて頂きうがい 歯磨き 義歯洗浄している ご本人が出来ない場合スタッフが介助させて頂きます。月2回訪問歯科で口腔ケアマッサージを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握してトイレの声かけや誘導を行っている。又排泄チェック表使用してある程度予測して紙パンツの使用を減らしている。尿意便意のある方には さり気ない声かけや見守り確認などで重視した支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表から個々のリズムを把握し、表情やしぐさを見ながら、プライバシーにも配慮して声を掛けトイレへ誘導を行っています。支援方法や排泄用品について個々の利用者にあったものとなるようにカンファレンスで話し合い検討しています。また退院後は元の排泄状況に戻れるよう支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日 ラジオ体操散歩を日課にしており食事形態 毎日の水分補給に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて出来るかぎり入浴して頂ける様に心がけています。又入浴剤も取り入れ気持ちよく入って頂いています。	朝から15時くらいまでの時間帯で週に2回入浴支援をしており、入浴剤を使用したり職員と会話を楽しみながら入ってもらっています。拒否される方については、声掛けの時間や職員を変えたり、足浴での対応等無理なく入ってもらえるよう支援しています。また脱衣所にはエアコンを入れてヒートショック対策を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっており本人の希望に応じて少し横になったりお昼寝をしたりテレビをつけたまま寝たりなど自由の使って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携を取りながら個人のお薬ケースと説明を利用し服薬管理を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により役割を分担して出来る作業を行っています。ご本人		

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩に出かけています。最近是个々の計画がなかなか出来てませんが、外食やドライブも又気候に合わせて実施して行こうと考えています。家族様にもご協力頂いています。	天気の良い日には散歩に出かけたり、玄関前でおやつを食べる等、外気浴を行い気分転換を図っています。季節毎の外出では桜やコスモスを見に行ったり、家族の協力を得て散歩やドライブ、外食、百貨店に買い物に行く方もおスムーズに外出できるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっています。希望に応じて使える様に支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じてお電話したり お手紙を出したり出来る環境作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画工作や写真を掲示し何気なく利用者様のお話にも出てきます。廊下や浴室に暖房を付けて温度差のリスクに対応させて頂いています。	玄関やリビング等に季節ごとの飾り付けを利用者と一緒に行い、利用者の写真や作品も飾っています。可能な利用者と一緒清掃を行い、週に1回は美化活動として特に重点的に行い、温湿度計や空気清浄器などを備え付け、体感にも配慮しながら快適に過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士でみ、気の合う方への席の配慮や外が眺められる所にソファを設置するなどして配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていたタンスや家具など使用されたり写真や趣味で書かれた絵など飾らせて頂いたりご本人にとって居心地の良い空間となる様に配慮しています。	入居時には普段使っていた馴染みの物を持参してもらうように説明しています。テレビやタンス、鏡台等を持ち込み、大切にしている家族の写真を飾ったり、仏壇や自身の作品、趣味のハーモニカや本等をそばに置いています。配置については家族と相談しながら決めており、希望の方は布団を敷いて休むこともできます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止め素材を使用した床で手すりも多く設置しており食堂、リビング、トイレ等バリアフリーで自由に歩いて移動出来るようにしています。		